

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104998		
法人名	(株) エス・エッチ・メデカル		
事業所名	グループ ホーム かえで (1階)		
所在地	岡山市 南区 松浜町 7 - 34		
自己評価作成日	平成23年1月11日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370104998&amp;SCD=320">http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/informatioPublic.do?JCD=3370104998&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館		
訪問調査日	平成23年1月28日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個々の能力を生かした温かいケア」の理念に基づき、今年度も研修(実践者研修・リーダー研修)を受講した職員を中心に、利用者の気持ちに寄り添えるよう常に考えながらケアを行うよに心掛けるようにしています。そして落ち着いた家庭的な雰囲気でも過ごしていただけるように心がけ、環境づくりにも配慮しています。看取り介護は希望があれば積極的に行い、最期の瞬間までご本人の意向やご家族の意向をしっかりと捉えご満足いただけている。看取りを行った方のご家族からも今も尚、様々な支援をいただいていることが職員の大きな励みと自信に繋がっている。地域との交流も更に深まり、施設のある町内だけでなく、となりの町内からも盆踊りのお誘いがあるなど地域に根ざした施設になり、開かれた施設運営ができています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人「佐藤病院」のバックアップもあって医療面については利用者本人・家族、そして職員も安心出来る。職員は身体ケアの充実、レベルアップと同時に、数年前より利用者の心のケアに特に力を入れている。一人ひとりに寄り添い、今の想いを受け止めることでその人をより一層好きになるよう、職員は模索を続けている。数年来実施してきた法人グループ間での「改善コンクール」でも高く評価され、今回もこのテーマを継続すると聞いた。利用者本人や家族からも「温かい雰囲気、和やかで楽しい」等の言葉も多く聞かれ、家族アンケートの満足度も高い。ホームの建物が周辺の風景の中で余り目立つ事無く建っているが、まもなく10年を迎えようという今、地域の人達との交流も広がり、実際にこの街に溶け込んだホームになってきている。(21.目標計画達成は2項目中1項目を実施できた)

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個々の能力を生かした温かいケアの理念を共有し、職員・管理者は日々どの様にケアをしたら良いのか考えながらケアを行っている。	大きく掲げた理念を常に念頭に置きながら、日常の中で少し頑張れば達成出来るような具体的な小目標を個々の職員が設定し評価し合う仕組みが見られる。新人の新鮮な疑問や意見も積極的に取り入れようとしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を交流のきっかけとし、施設の行事また地域の行事に参加し、お互い交流を深めている。	時候の良い時は近くの公園等散歩するが、その時の近所の人との交流の中で地域の祭りへのお誘いが増えたり、ホームの餅つき大会に町内の人や子供たちが参加する等、お付き合いが広がっている。又、日頃からお花を頂く等、親しくしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で認知症のご家族をお持ちの方の話の聞いたり、意見交換するなどし支援を行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議をホーム内で行うことで利用者のサービスの実態を見ていただき、また、サービス評価の説明を行い意見交換をし、サービスの向上に繋げるようにしている。	町内会役員、民生委員・地域包括職員・家族代表等の参加を得て、定期的を実施している。ホームの現状報告や意見交換を始めとして、行事等も交えながら利用者の生活の様子を把握し、理解してもらっている。	運営推進会議の内容も多岐にわたり、目標達成計画の課題にも取り組めたが、次の段階での目標として、「会議の内容をどのようにサービスの向上につなげるか具体的な事例を一つでも増していきたい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	分からない事などあれば相談するなど協力を仰ぐようにしているが、市の方の運営推進会議参加は難しいようである(地域包括支援センターの方の参加はある)。	運営推進会議への市の担当者参加依頼は継続したい。ホームの方から問題がある時等には市の担当者に相談し、良いアドバイスは受けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を中心に内部研修を行い、該当する具体的な行為に関する理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関の施錠を含め、身体拘束に該当するような状況は今の所見当たらない。頻繁に実施している勉強会でも良く身体拘束や虐待に関する内容を取り上げ、研修を重ねている。職員の声掛けや接し方についても心理的拘束に繋がらないか気を付けている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い周知を図っている。身体拘束から虐待にもつながることから身体的拘束・言葉による拘束はもちろん、薬による拘束を行わないように注意をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講習に参加し、他の職員にもそれに基づいて勉強を行うようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族に理解していただくよう書面にて説明し納得していただいている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートをとりご家族より要望をお聞きし、業務に反映するよう努力している。	日常的に職員が利用者・家族と接する時、耳をしっかりと傾けようとしている。昨年7月と12月に実施した「家族会」でもコーヒーを飲みながらの交流の中から感想や意見を出してもらっている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月話し合いを行い職員の意見や提案を聞き、一緒に検討している。また、実施状況については追って確認し、随時再検討している。	「話し合い議事録」等からも、職員間でよく意見交換をしたり、小目標設定を通しての提案が多く見られる。「あゝしたい、こうしたい」の意見が取り上げられ、自分の意見が形になって喜ぶ職員の話も聞いた。こういった積み重ねが仕事への意欲につながる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ありがとう経営のすすめの一環として“ありがとうの箱”を設置するなどし、やりがいや向上心が持てるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修に積極的に参加できるように努めている、また、資格取得のための勉強会の開催や助成を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一度の意見交換や訪問、グループホーム協会研修会などへの参加を通して職員の質を向上させる努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のオリエンテーションで、ご本人より要望等を伺い、ご本人の安心につながるよう努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のオリエンテーションで、ご家族より困っていること等を伺い、安心して入居していただけるよう関係づくり努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の自宅への訪問やオリエンテーションで何が必要とされているか見極め、サービスの提供を行うよう努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来るだけ、介護されるだけの状態ではなく、出来るお手伝いなど行っていただくよう共に暮らす関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事あるごとにご家族と相談し情報を共有することで、ご家族と共に支えていくよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族から面会拒否などない限り、お友達などと交流していただいたり、外出を行っていただくことで馴染みの関係がとぎれないよう努めている。	自宅の近所の友達が「さん、居ますか」と尋ねて来てしばらく一緒に過ごしたり、月1回家族が家へ連れて帰る人も居る。今は空家となった家に帰り畑や山を見回りして安心する人も居る。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関わり合いが持てるよう、誘導・支援を行うような場面作りを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族からの相談があった際はアドバイス等を行い、可能な限り支援を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の何気ない言動や表情を気にとめ細かく記録し、入居者の気持ちに寄り添い、出来るだけご本人の意向に添った生活を出来るように努めている。	月間目標の一つに掲げていた「一日一人でも良いので何か一つ希望を聞き出そう」との職員の思いは、目標達成計画の具体的取り組みの一例である。ホームとしては目標がまだ達成出来ていないと評価して継続しようとしている。	さんが新聞を見て「宝くじを買いに行きたい」と訴えたのに、事情があって本人が買いに行けなかった事例を職員は悔やんでいる。このような小さな事例の成功を日々一つでも増やしていくことが本人・職員の大きな喜びにつながる。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に話を伺い、これまでの生活歴を把握する様に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の悪そうな時には、休んで頂く。調子の良さそうな時にはお手伝い等をしていただくなど、日々の状態を見て、生活していただく様にしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々のご本人の行動や言動などからご本人の、望む生活をして頂ける様、又、ご家族の意向を反映し、介護計画を作成している。	より良いケアプランを作り実践する為の工夫が個人ファイル・話し合い議事録・モーニングカンファレンス・インデックス等の記録から数多く見られた。「改善コンクール」でも気付きの工夫について発表する予定という。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫していることを記録に残すことで情報の共有化を図り、介護計画に反映するようにしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のご要望に出来るだけ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭りや餅つき等の行事の参加により、地域交流を図り、顔馴染みの関係を作り、無断外出の時に声を掛けていただくなど、生活の安全性を図ることが出来ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人又ご家族の、希望されるかかりつけ医を受診していただく様にし、適切な医療が受けられるようにしている。	法人の母体である病院の医師に週1回は往診で診てもらえるので安心出来る。緊急の場合は職員が対応している。歯科医も往診してもらう等、かかりつけ医とは提携関係を築いている。家族が希望のかかりつけ医に受診支援する事もある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の訪問看護来所時、異常者の状態を相談し、支持を仰いでいる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、ご本人の状態の情報提供をし、安心して治療が出来るよう、又、入院中ご本人の情報収集に努め、早期退院できるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族、医療関係者等には入居時から話し合い、相談を細めに行いながら、終末期に向け対応している。しかし、地域の方には特に支援をもらっていない。	ホーム開設以来看取りについては十分な取組が出来ており、何例か経験もしてきた。以前GH協会で感動的な発表もした。現在看取りを終えた有る家族が週2回ボランティアで来てくれている。辛い経験だが嬉しいつながりも広がっている。今後も慎重に考え、前向きに対処したいと聞いた。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	4ヶ月ごとの避難訓練の際に合わせ初期対応の訓練を行うようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4ヶ月ごとの訓練を実施している。運営推進会議時、地域の方々には協力を頂くよう声を掛けており、協力体制はできていると思う。	運営推進会議の記録の中に、「避難訓練を町内関係者・消防署員等の参加があり実施」「スプリンクラーの設置を4月完了」等見られた。ホームと隣りの民家は隣接しているため、近隣住民には建物内に入ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	危険を伴うことが予想される時には、過干渉になることもあるが、誇りやプライバシーを損ねないように心がけている。	認知症の症状による利用者同士のトラブル、重度の状態の人へのケアの必要性が重なる等、気持ちを損ねかねない場面もあるが、職員の工夫やフォローで、出来る限りの人格尊重を、また、プライバシーに配慮するようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や、思いを引き出せるような関わりを持ち、記録に残し、職員間でそれを共有している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の意思、要望を聞き、無理強いしないように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までのご本人の好みに沿った身だしなみを心がけている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には、声掛けをして、準備、片付けをしていただいている。季節の食材や献立も取り入れている。	昨年の酷暑の時、安全を優先させて「食事業者の一部利用」としてきたが、他ホームへの入所体験研修を終えた職員等から「一からの食事作り」へ戻す提案があり、検討中と聞いた。昼食は職員も少しの手助けをしながら、みんなで楽しい食事となっていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、食事量をチェックし、摂取量が減少していれば食事形態を変えるなど対応している。水分もこまめに声掛けをし、摂取していただくようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事前後にうがいを促し、口腔ケアを心がけている。口腔ケアについては歯科医師や歯科衛生士からもアドバイスを得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄間隔を把握し、一人ひとりに合わせた対応をしている。	出来る限り自分で力で排泄を、出来る限りオシメを使わないよう、それぞれの人への対応をしている。居宅にカーテンで仕切ったマイトイレがあり、プライバシーを守り易い。しかし、非常に激しい拒否の人も居て支援し難いが、職員は粘り強く付き合っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や運動、マッサージを施行し、便秘予防に努めている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	嫌がられると無理強いしないで気分の変化に合わせて対応を行なっている。希望時間のタイミングに合わせている。	一日置きに殆んど確実に入浴している。羞恥心が強く服を脱ぐ事を嫌がる人も居るが、湯船に入るとOKという。台所で さんが見つけたゆずの残りで「ゆず湯」を楽しんだと言う話も聞いた。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入眠前の環境(照明、音など)への配慮や、空腹、口渇への対応をこまめに行なっている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況の変化に注意深く観察し、かかりつけ医や薬剤師の支援のもと個人の薬に関する情報を職員が共有する工夫を行っている。ご家族とも相談し、状況に応じて対応している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出の好きな方、歌、嗜好品等の楽しみを感じていただけるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば可能な限り支援している。	家族への素晴らしいより「かえで」には、日帰りの旅行・花見・外食・初詣等の外出の様子が記されている。ホームのすぐ近くには二つの公園もあり、散歩コースもあり、良い季節には数人単位でお出掛けしている。	行事以外のちょっとした外出・買物等、今後利用者の重度化も考えられるので、家族の協力もお願いして、意識して支援計画を立てて見よう。「本人の想いを受け止める」の目標にもつながるし、地域交流も広がるかも知れない。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方は、職員が金額を把握するようにし、所持されていない方には、買い物に行かれた際に、貸し出しをしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて電話をかけたり、手紙を送るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物、花、飾り等で季節を感じられるように配慮している。又、混乱を招くような物は撤去している。	それぞれの人の落ち着く場をじっくりと見定め、空間を分けたり、ソファの位置・椅子の置き方を決めている。こじんまりと人が集まる場も作っている。リビングの壁には利用者の作品や写真が日頃の様子を伝えている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれるように椅子を配置したり、気のあった利用者同士でも過ごせるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご本人やご家族と相談して、馴染みの物、使い慣れたものを活かして、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	居室入り口の暖簾や本人手書きの名前がそれぞれ異なって良い。室内も一人ひとり個性的で、ベッドの位置や持ち込み品等、掲示物にも工夫が見られる。「 さんの部屋」という感じになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人で片付けが出来るようにベット等を配置したり、ご本人が分かるように札を貼ったりして対応している。		